

# 都市の露地

指導教員 吉松秀樹 教授 印

7AEB3208 圓道寺 ゆみ

## 1. 背景・問題意識 「代官山の路地」

代官山は凸凹な地形と街区にある広場のような空間が印象的であり、これらにより自由な視点の移り変わりや自由な動線が生まれている。私はこの町で境界性のある路地に魅力を感じた (fig. 1)。

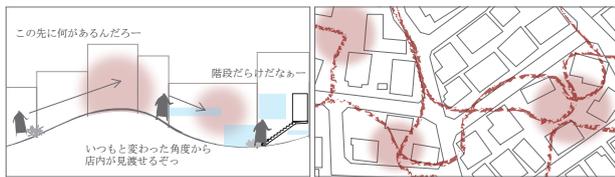


fig. 1 都市の露地

## 2. 文献調査 「ロジとは何か」

日本には、露地と路地の 2 種類がある。露地は庭などの面を指し、路地は通路などの線を指す (fig. 2)。

	露地	路地
① 屋根などの覆いのない地面	○ 露地栽培や露地ナスのこと	△ public な路地も屋根はない
② 茶室に付属した庭	○ 茶庭は露地である	△ 路地も使われていた
③ 門内・庭内などの細い道	主体を何にするかで異なり、どちらともあてはまる	
④ 建物と建物間の狭い道	×	○

private public fig. 2 露地と路地

### 「茶庭の露地」

江戸時代、茶書「南方録」より茶庭を露地と呼ぶようになった。作られ方は、茶人によって好み異なる (fig. 3)。計画された露地には機能を持つ部分と機能を持たない残った部分が存在し、後者が茶庭を引き立てている。

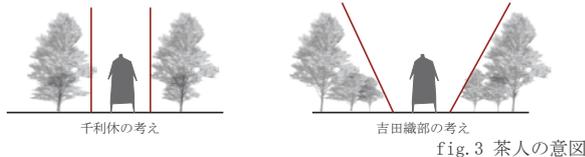


fig. 3 茶人の意図

## 3. 分析 「都市の露地」

代官山は、都市の余白の一部によって自由な動線を描く事が出来、それは茶庭の余白と共通する (fig. 4)。これらの余白は、余分な部分ではあるが、そのものの大事な役割を担う「あそび」のようである。都市を1つの庭に例えると、露地は茶庭の域を越え、あらゆる所に存在するのではないだろうか。

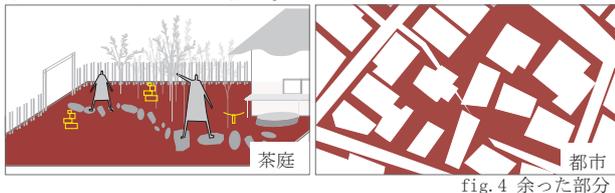


fig. 4 余った部分

## 4. 定義 「都市の露地とは」

都市の露地とは「都市のあそび」と定義する。それは、日常では気づかないが、都市を計画する上で意図されず出来てしまったへた地のような部分を指し、その町にとって大事な役割を果たしている。

## 5. 調査 「都市の余り」

都市には余った部分がどれだけ存在するのか、街区内の空地を数値化し、それぞれ比較する (fig. 5)。

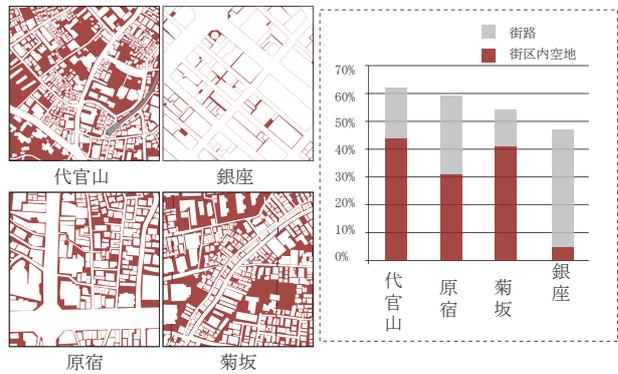


fig. 5 空地の割合

銀座などグリット状に計画された都市には、街区内空地はほとんどない。逆に、代官山や菊坂など地形により街区が整っていない都市や、原宿など私道の多い都市では街区内空地が多く存在することが解った。

## 6. 調査Ⅱ 「都市のあそび」

代官山猿楽町は第二種専用住居区域に指定されているため、延べ床面積 150 m<sup>2</sup>以上の商業施設は禁止されている。その中で平田晃久設計「SARUGAKU」に着目する。都市計画の制限を受け、分棟型となり、その中心には私道が通る。この私道は地図上には記されているが、実際に訪れると私道と気づく事はない (fig. 6)。この空間が「都市に隠されたあそび空間」であるとすれば、上記で示した街区内部空地の中に、「露地的要素」が含まれているのではないかと。

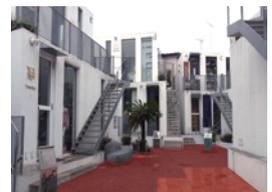


fig. 6 「SARUGAKU」の私道